

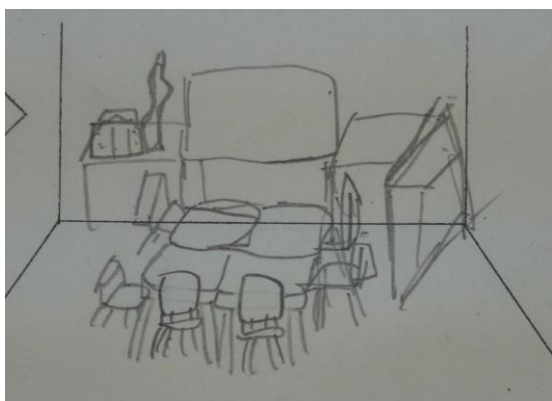
羽咋高等学校

Letters

作:木川田敏晴

◇概要◇

鈴木美枝子と本田佳子は幼なじみの高校3年生。国語の授業でラブレターを書いて発表しなければならない二人は、後輩の小林も巻き込み、「究極のラブレター」作りに悪戦苦闘。やがてそれぞれの思いが重なってゆき……。



◇メッセージカードより◇

- ・派手ではないけど、じわあーっと心に来るものがある、いい劇だと思いました。強がっている女の子の本当の気持ちが印象的です。宿題でラブレターを書けというのがびっくりしました。そして、幼馴染な関係があとにどうなったのかが、気になって素敵なお話だと思いました。面白みや話しの深い部分もあって心にグサッとささるような感じでした。
- ・日常感あふれる劇で、とても感情移入しやすかったです。1人1人の心情がとても分かりやすかったです。舞台のセットに公演のチラシや盾、トロフィー、ラジカセなど色々なものがあるって演劇部だなあって、すごく感じました。ストーリーも高校生らしくて個性キャスト3人で恋の物語を演じる所も魅力的でした。

◇楽屋インタビュー◇

Q1. 途中の「カンカンカン」という音は何を表しているのですか？

A. 手紙を書いているときの時間の経過を表しています。

Q2. 一番苦労したことは何ですか？

A. キャラクターの心の揺れ動きの表現の仕方です。

Q3. この芝居を通して伝えたかったことは何ですか？

A. 自分の気持ちと友達との気持ちとで色々戸惑ったりすることもあるとは思いますが、最終的には自分の気持ちを信じてやっていくことが大切だということです。

Q4. 自分の学校の演劇部について

A. 今年初めて大会に出場しました。少人数で部活を行っています。



【速報担当】古倉千聖 酒井杏菜(北陸)

※ 羽咋高等学校のみなさん お疲れ様でした！！